

埼玉生団連 第5回会合

3月26日(水)埼玉生団連 第5回会合を開催いたしました。



▲柿沼トミ子 会長
(埼玉県地域婦人会連合会 会長)



▲川野 幸夫 副会長
(株式会社ヤオコー 代表取締役会長)



▲会場の様子

冒頭、柿沼会長より埼玉生団連は、全国の地域生団連の中でも先陣を切って活動を開始し、「埼玉らしさ」を活かした地域課題の解決に取り組んでおり、今後も参加する意義やメリットを実感してもらえよう、皆様の意見を踏まえつつ活動の深化を図っていくのご挨拶をいただきました。

また川野副会長からは食品ロスの問題は、単なる環境課題にとどまらず、食料安全保障にも深く関係する重要な課題であり、食品ロス削減への取り組みはより一層重要性を増している。埼玉生団連としても皆様のお力をお借りしながら、意義ある活動を推進していきたいとお話をいただきました。

会合では、埼玉生団連の立ち上げ当初からの重点テーマである「食品ロス削減」に関して、これまで実施してきた勉強会や現地視察会で得た知見を踏まえ、実行フェーズとしてフードドライブの実施を検討し、議論を行いました。会員からは、フードドライブを進めるにあたり、自社が取り組めることについてご意見をいただきました。

【出席者からのご意見】(一部抜粋)

- 子どもの貧困や食の問題は深刻化しており、食品ロスを活用した支援が求められている。冷凍食品など保存性の高い商品の有効活用や、企業・行政との連携が今後の課題である。
- 物流会社として、食品の集荷・配送支援が可能。共配業務と併せて行えばコストも抑えられ、効率的にフードドライブに貢献できる。
- 主に日本酒を製造しており、その過程で米ぬかや酒粕が副産物として発生している。これらはぬか漬けや粕汁など、栄養価の高い食品として有効活用が可能である。近年は家庭で粕汁を作る機会が減っているが、健康食品としての再評価や食育の観点から、地域への提供や活用を進める意義があると感じている。
- 野菜や果物については、店頭で値引きコーナーで販売を行っているが、それでも売れ残ったものは廃棄している。値引きでも購入されない商品は、形状や鮮度などに問題がある場合が多く、そのまま寄付するのは難しいと考えている。また、値引きが始まるのは夕方以降であり、その時間帯に合わせた引き取りの調整も困難であることから、実務上の課題が多いというのが現状である。